

【国指定重要無形民俗文化財】

嵯峨大念佛狂言とお茶会

とき 平成28年

10月1日（土）

どる サンサ右京 1階ロビー

今年3月、文化庁の京都への全面的な移転が決定しました。右京区では、区民の皆様に身近に文化芸術に触れていただく取組を進めています。この度、清涼寺（嵯峨釈迦堂）で嵯峨大念佛狂言保存会により年数回演じられている「嵯峨大念佛狂言」を、サンサ右京で初めて上演します。また、当日は、面着け体験や京都嵯峨芸術大学茶道受講学生のお点前（表千家流）によるお茶もお楽しみいただけます。

■嵯峨大念佛狂言 演目：蟹 殿

午後1時30分～2時30分

おなじみの「さるかに合戦」に「桃太郎」の話を加味した、勸善懲惡を説く仇討ちのお話

蟹の親子が柿の実を採ろうとするが木に登れない。そこへやってきた親猿にとってほしいと頼む。親猿は熟したものは自分で食べ、親蟹に渋柿を投げつけて殺す。子蟹はたいそう悲しみ、仇討ちを誓う。

やがて、成長した子蟹は「日本一のきび団子」を腰につけ、猿ヶ島を目指して旅立つ。途中、鉄（はさみ）に出会い、団子を半分与えて家来にする。栗や臼も家来に加わる…。

■面着け体験

■お囃子の楽器（鉦、太鼓、笛）紹介

午後2時30分～3時30分

終演後、狂言で実際に使用される貴重な面（おもて）を、実際に着けていただけます。

また、囃子方で使われる楽器を間近で観ていただけます。

嵯峨大念佛狂言

鎌倉時代末、京都で円覚十萬上人が始めた大念佛会をきっかけにして念佛狂言が生まれました。嵯峨狂言は京都三大念佛狂言（壬生・嵯峨・千本）のひとつで、昭和61年に国の重要無形民俗文化財に指定されています。

一般に知られる狂言とは異なり、すべて民間人の手で行われています。また、すべての役者が面を着け、セリフなしに進行する「仮面の無言劇」であることも特徴です。



■お茶会

第1部 午後0時30分～午後1時15分

第2部 午後2時30分～午後3時30分

表千家流によるお茶とお茶菓子を京都嵯峨芸術大学茶道受講学生のお手前で、お楽しみいただけます（無料、先着120名）。



文化芸術が生活に根付く 健康長寿のまち右京

＜参加無料＞



■アクセス

市バス・市営地下鉄「太秦天神川」駅、嵐電「嵐電天神川」駅下車すぐ
※会場へは、公共交通機関でお越しください。

